

今村 和佳奈

富山県立入善高等学校

(社会人3年目)

【取材日：2025.12.9】



現在のお仕事について教えてください

高校1学年の担任として、進路指導や学習相談、学級運営を主に担っています。化学と生物の授業を担当し、実験も多いため事前準備を大切にしています。課外活動では、理系コースの野外研修や、吹奏楽部の副顧問として、演奏の引率や準備に携わっています。

富山大学で学ぶきっかけ

高校時代に海外研修に参加し、海外の学校における教育の多様性を実感しました。理系科目が好きで理学部という選択肢も考えましたが、教育についてより深く学びたいと考え、人間発達科学部に進学しました。富山大学に進学した先輩のお話を聞く機会があり、地元からも近く、入学後の生活を具体的にイメージできることから、進学を決めました。

幅広い教育に携わることができる環境

多様な教科や校種を選ぶ学生と、講義などを通して学び合える環境です。専門とする中高教育だけではなく、小学校や特別支援学校の教育や指導法も学ぶことができます。幅広い視点から教育を捉えなおすことで、発達段階や学びの多様性への理解を深めました。実際に教員となり、最初の2年間は特別支援学校勤務でした。富山大学での実践的な学びが活かされました。

Profile 長野県出身。長野県長野高等学校出身。元ダンス部。2018年、富山大学人間発達科学部人間環境システム学科環境社会デザインコースに入学。大学時代、ジャズ研に漫り、留学やゼミ研究を通して研究室の研究でAR教材を開発。2022年4月より富山県の特別支援学校小学校教諭として勤務し、絵本の読み聞かせとバルーンアートを極める。現在は高校教諭の傍ら、論文執筆や学会発表を続け、教育現場で実践を重ねている。

富山大学で得たものは何ですか

学生時代の努力を共にした同期の教員仲間です。当時の教員採用試験では模擬授業が課されていました。学部を超えて意見を出し合いながら切磋琢磨しました。そうした経験もあり、教員としてのスタートを富山で切りたいと考えるようになりました。

大学の卒研が研究と実践の基礎を築く

大学の卒業研究で、天体のAR教材を開発しました。理科の単元には目に見えない現象が多いです。生徒がイメージしやすい教材が必要だと考え、「金星の満ち欠けの仕組み」に着目しました。在学中の指導教員であった片岡弘教授や月僧秀弥准教授には、研究知識だけでなく研究の奥深さややりがい、卒業しても活かせる実践力を教えていただきました。現在も先生方と論文執筆をつづけ、新たなAR教材を現場で実践しています。学会発表や運営、座長経験も研究活動を通して得た貴重な学びです。

高校生へのメッセージ

少し前、学校のPTA広報で座右の銘を聞かれたことがあります。「二兎を追う者、二兎を得る」です。今は専門や得意分野を複数持ち、その掛け合わせが重要な時代だと感じています。やりたいこと、やらないといけないこと、やろうか迷っていること、色々あると思いますが是非すべて欲張ってください。その挑戦が人生を豊かにしてくれます。